

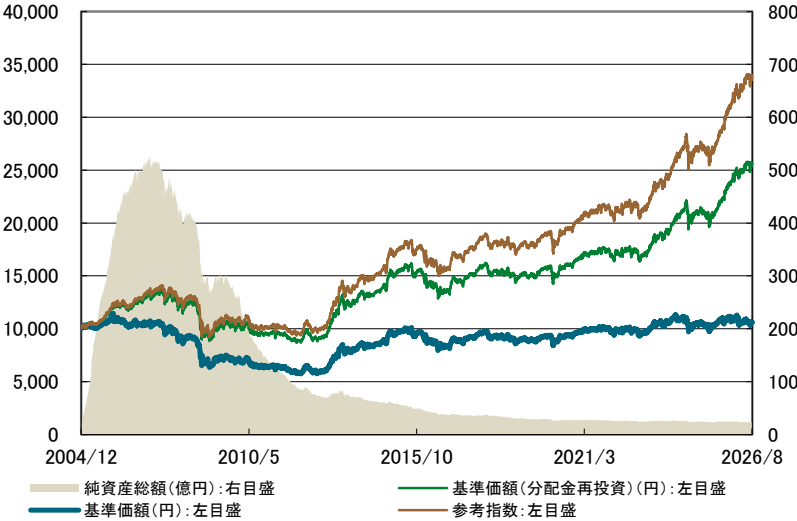


グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2004年12月1日
作成基準日 : 2026年8月31日

基準価額の推移



- ※ データは、当初設定日から作成基準日までを表示しています。
- ※ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。
- ※ 基準価額は、信託報酬控除後です。
- ※ 参考指数は、各マザーファンドのベンチマークを当初設定日の基本組入比率に基づいて三井住友トラスト・アセットマネジメントが合成し、当初設定日を10,000として指数化したものです。各マザーファンドのベンチマークについては、2ページをご覧ください。

基準価額、純資産総額

	当月末	前月末比
基準価額	10,658 円	+ 97 円
純資産総額	23.71 億円	+ 0.14 億円

期間別騰落率

	ファンド	参考指数
1ヵ月	1.01%	1.77%
3ヵ月	1.13%	1.56%
6ヵ月	1.84%	2.58%
1年	16.81%	18.88%
3年	35.38%	41.91%
設定来	156.84%	239.87%

※ ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものとして計算しています。

分配の推移(1万口当たり、税引前)

設定来分配金合計額 8,656 円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2025年	10 円	10 円	10 円	10 円	10 円	10 円	10 円	10 円	510 円	10 円	10 円	510 円
2026年	10 円	10 円	510 円	10 円	10 円	260 円	10 円	10 円	-	-	-	-

※ 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

<本資料のお取り扱いにおけるご留意点>

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により運用方針等が変更される場合があります。

グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

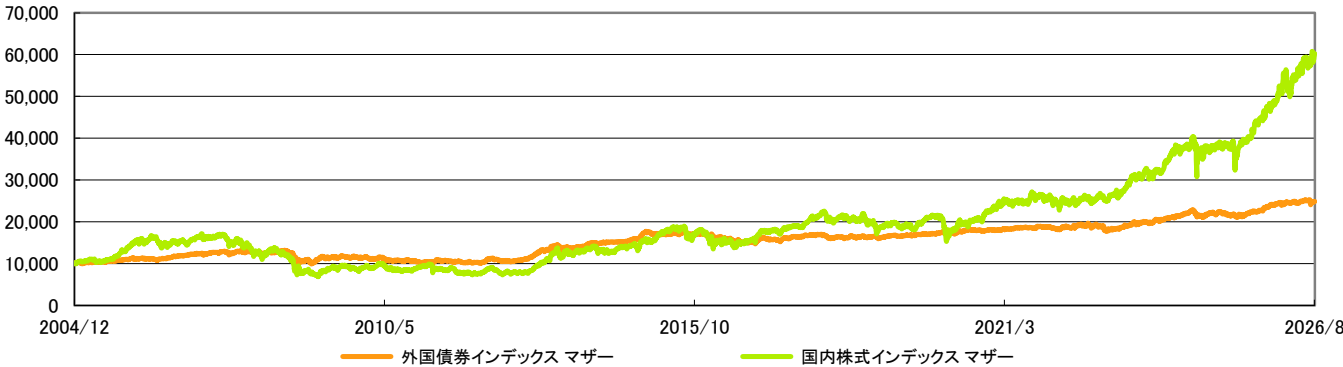
当初設定日：2004年12月1日
作成基準日：2026年8月31日

マザーファンドの状況

マザーファンド	資産構成比	基本組入比率	差	基準価額騰落貢献額
外国債券インデックス マザーファンド	67.63%	70.00%	-2.37%	- 3 円
国内株式インデックス マザーファンド	30.40%	30.00%	0.40%	121 円
その他	1.97%	-	-	- 21 円
合計	100.00%	100.00%	-	97 円

※ 対純資産総額比です。

マザーファンドの基準価額の推移



※ 当ファンドへの組入開始時を10,000として指数化し、作成基準日までを表示しています。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	比率
1	日本	32.37%
2	米国	30.09%
3	中国	8.75%
4	フランス	4.75%
5	イタリア	4.32%
6	英国	3.91%
7	ドイツ	3.79%
8	スペイン	2.74%
9	カナダ	1.44%
10	ベルギー	0.97%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10通貨

	通貨	比率
1	日本円	32.37%
2	米国ドル	30.09%
3	ユーロ	19.13%
4	オフショア人民元	8.75%
5	英国ポンド	3.91%
6	カナダ・ドル	1.44%
7	オーストラリア・ドル	0.89%
8	韓国ウォン	0.87%
9	メキシコ・ペソ	0.61%
10	ポーランド・ズロチ	0.48%

※ 対純資産総額比です。

マザーファンドのベンチマーク

※ 各マザーファンドのベンチマークは、以下の通りです。

マザーファンド	ベンチマーク
外国債券インデックス マザーファンド	【FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)】 FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。 FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性及び完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏又は遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
国内株式インデックス マザーファンド	【TOPIX(東証株価指数)(配当込み)】 TOPIX(東証株価指数)とは、株式会社JPX総研が算出、公表する指数で、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。 「配当込み」指数は、配当収益を考慮して算出した指数です。 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)(以下、「配当込みTOPIX」という。)の指数値及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など配当込みTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及び配当込みTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、配当込みTOPIXの指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、JPXにより提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJPXは責任を負いません。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2004年12月1日
作成基準日 : 2026年8月31日

外国債券インデックス マザーファンドの資産の状況

※ 債券評価額には経過利子を含めています。

資産内容

債券	98.62%
債券先物取引	0.74%
短期金融資産等	0.64%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

特性値

	ファンド	ベンチマーク
直接利回り	3.05 %	-
最終利回り	3.83 %	3.90 %
残存年数	8.83 年	8.85 年
修正デュレーション	6.05	6.11
銘柄数	1,033	-

※ 修正デュレーションとは債券価格の金利変動に対する感応度(変動率)を表しており、この値が大きいほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※ 利回り(税引前)は純資産総額に対する値、その他は組入債券に対する値です。また、ファンドの運用利回り等を示唆するものではありません。

組入上位10カ国・地域

	国・地域	ファンド	ベンチマーク
1	米国	44.49%	44.10%
2	中国	12.95%	13.01%
3	フランス	7.02%	7.07%
4	イタリア	6.39%	6.27%
5	英国	5.78%	5.75%
6	ドイツ	5.60%	5.56%
7	スペイン	4.06%	4.06%
8	カナダ	2.13%	2.11%
9	ベルギー	1.44%	1.44%
10	オーストラリア	1.32%	1.36%

※ 対現物債券構成比です。

組入上位10通貨

	通貨	ファンド	ベンチマーク
1	米国ドル	44.49%	44.10%
2	ユーロ	28.29%	28.24%
3	オフショア人民元	12.95%	13.01%
4	英国ポンド	5.78%	5.75%
5	カナダ・ドル	2.13%	2.11%
6	オーストラリア・ドル	1.32%	1.36%
7	韓国ウォン	1.29%	1.59%
8	メキシコ・ペソ	0.90%	0.91%
9	ポーランド・ズロチ	0.70%	0.73%
10	マレーシア・リンギット	0.50%	0.49%

※ 対現物債券構成比です。

※ ベンチマークは中国・元の構成比になります。

市場動向

米国10年国債利回りは、ほぼ横ばいでした。7月雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想に反して減少となり、また、7月CPI(消費者物価指数)の前年同月比の伸び率鈍化など、軟調な経済指標の結果が金利低下要因になりました。月末にはウォーシュFRB(米連邦準備理事会)議長が「基調的なインフレ率が2%目標に向けて鈍化しているとの確信が持てなければFRBにはまだやるべきことがある」と発言し、インフレへの警戒姿勢と追加の金融引き締めの可能性が示唆されたを受け止められ、利回りは上昇(価格は下落)しました。ドイツ10年国債利回りは、3.324%に上昇しました。原油高によるインフレ圧力が再認識されたことや米金利の上昇が波及したほか、ECB(欧州中央銀行)による早期利上げへの警戒感が引き続き意識され、金利上昇要因になりました。米ドル/円相場は、円高・米ドル安となりました。月初は、7月末から8月初に日米当局が協調円買い介入を実施したことで、急速に円高が進みました。その後、原油価格の上昇や日本の財政悪化懸念が根強い円安圧力となる一方、追加介入への警戒感から米ドルの上値は抑制されました。月末には、ウォーシュFRB議長の発言を受けて米国の早期利上げ観測が高まり、再度160円台まで円安が進みましたが、前月末比では円高・米ドル安となりました。ユーロ/円相場は、小幅な円安・ユーロ高となりました。月前半は7月末から8月初の日米協調円買い介入を受け大幅に円高・ユーロ安となりましたが、その後はECBの早期利上げ観測や根強い円安圧力を背景にユーロは対円で上昇しました。月末はウォーシュFRB議長の発言の影響を受けて、円、ユーロともに米ドルに対して売られ、ユーロ/円は横ばいで推移しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2004年12月1日
作成基準日 : 2026年8月31日



国内株式インデックス マザーファンドの資産の状況

資産内容

株式	98.57%
株式先物取引	1.42%
短期金融資産等	0.02%
合 計	100.00%

※ 対純資産総額比です。

組入上位10業種

	業種	ファンド	ベンチマーク
1	電気機器	20.63%	20.62%
2	銀行業	12.61%	12.60%
3	卸売業	7.41%	7.41%
4	情報・通信業	6.31%	6.32%
5	機械	5.73%	5.73%
6	輸送用機器	5.10%	5.10%
7	化学	4.49%	4.49%
8	サービス業	4.39%	4.40%
9	小売業	3.77%	3.77%
10	保険業	3.45%	3.45%

※ 対現物株式構成比です。

組入上位10銘柄

	銘柄	業種	比率
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.89%
2	トヨタ自動車	輸送用機器	2.64%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.55%
4	日立製作所	電気機器	2.36%
5	ソニーグループ	電気機器	2.29%
6	リクルートホールディングス	サービス業	2.22%
7	東京エレクトロン	電気機器	2.02%
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.01%
9	アドバンテスト	電気機器	1.73%
10	ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.70%

※ 対純資産総額比です。

組入銘柄数 : 1,626

市場動向

国内株式市場は上昇しました。月前半は、海外ハイテク株の良好な決算内容を受けて、AI(人工知能)・半導体関連銘柄を中心に買いが優勢となりました。特に、米国の雇用統計やCPI(消費者物価指数)の低調な結果を受けて米早期利上げ観測が後退したことが上昇要因となりました。月後半は、中東情勢の先行き不透明感が改めて意識され、原油価格が上昇に転じたことや財政不安などにより、世界的に長期金利が上昇傾向となったことからハイテク関連株が軟調となる一方で、金融株が堅調となり、底堅く推移しました。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。



グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2004年12月1日

作成基準日 : 2026年8月31日



ファンドの特色

1. 日本を除く世界の主要国の公社債および日本の株式に分散投資し、ファミリーファンド方式で運用を行います。
 2. 資産ごとの運用では、各インデックスに連動する投資成果を目指します。
- | 資産 | インデックス |
|------|---------------------------|
| 外国債券 | FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) |
| 国内株式 | TOPIX(東証株価指数)(配当込み) |
3. 債券70%、株式30%を基本資産配分比率として運用します。
 4. 原則として、毎決算時(年12回)に収益の分配を目指します。また、年4回(3月、6月、9月、12月)の決算時には、加算分配を目指します。

投資リスク

《基準価額の変動要因》

- ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。
従って、**投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**
- **信託財産に生じた利益及び損失は、全て投資者の皆様に帰属します。**
- **投資信託は預貯金と異なります。**

【株価変動リスク】

株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【為替変動リスク】

為替相場は、各国の経済状況、政治情勢等の様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。

【金利変動リスク】

債券の価格は、一般的に金利低下(上昇)した場合は値上がり(値下がり)します。また、発行者の財務状況の変化等及びそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢等により変動します。債券価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。

【信用リスク】

有価証券の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利払い、償還金、借入金等をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなった場合、又はそれが予想される場合には、有価証券の価格は下落し、基準価額の下落要因となる可能性があります。

【有価証券の貸付等に係るリスク】

有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産などにより決済が不履行となるリスクがあります。貸付契約が不履行となった場合、担保金による有価証券の買戻しの際、時価変動の影響から損失を被り、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

《その他の留意点》

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の換金申込が発生し短期間で換金代金を手当てする必要が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。
これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止、取り消しとなる可能性、換金代金のお支払が遅延する可能性があります。

作成基準日 : 2026年8月31日



グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日 : 2004年12月1日

作成基準日 : 2026年8月31日

ファンドの費用

《投資者が直接的に負担する費用》

■ 購入時手数料

購入申込受付日の翌営業日の基準価額に**2.2%(税抜2.0%)を上限**として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

■ 信託財産留保額

ありません。

《投資者が信託財産で間接的に負担する費用》

■ 運用管理費用(信託報酬)

運用管理費用(信託報酬)の総額は、以下の通りです。

純資産総額に対して**年率1.32%(税抜1.2%)**を乗じて得た額

(有価証券の貸付の指図を行った場合)

ファンドの品貸料及びマザーファンドの品貸料のうちファンドに属するとみなした額に**50%未満の率***を乗じて得た額

※ 2026年8月19日現在、合計で49.5%(税抜45%)以内とし、その配分は委託会社29.7%(税抜27%)、受託会社19.8%(税抜18%)です。(品貸料はファンドの収益として計上され、その一部を委託会社と受託会社が信託報酬として受け取るものです。)

■ その他の費用・手数料

有価証券の売買・保管、信託事務に係る諸費用等をその都度、監査費用等を日々、ファンドが負担します。これらの費用は、運用状況等により変動するなどの理由により、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

※ 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「お申込みメモ」、「ファンドの費用・税金」をご覧ください。



グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

当初設定日：2004年12月1日
作成基準日：2026年8月31日

委託会社・その他の関係法人の概要

- 委託会社 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社(ファンドの運用の指図を行う者)
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第347号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会
ホームページ：https://www.smtam.jp/
フリーダイヤル：0120-668001 受付時間 9:00～17:00 [土日・祝日等は除く]
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管及び管理を行う者)



SMTAM投信関連情報サービス

お客様が指定されたファンドに関する情報(基準価額、レポート)や投資に関するコラム等をLINEでお知らせします。

※LINEご利用設定は、お客様のご判断をお願いします。
※サービスのご利用にあたっては、あらかじめ「SMTAM投信関連情報サービス利用規約」をご確認ください。

販売会社

商号等		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○			
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) ※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社) ※1	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
SMBC日興証券株式会社 ※2	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○	○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※1 ネット専用のお取り扱いとなります。
※2 2024年4月30日以降、新規の買付けを停止しており、換金のための受付となります。

- ・ お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、販売会社へお申し出ください。
- ・ 販売会社は今後変更となる場合があります。

グローバル・インカム&プラス(毎月決算型)

追加型投信／内外／資産複合

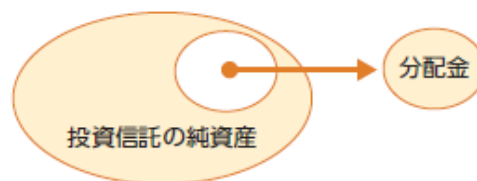
当初設定日 : 2004年12月1日

作成基準日 : 2026年8月31日

収益分配金に関する留意事項

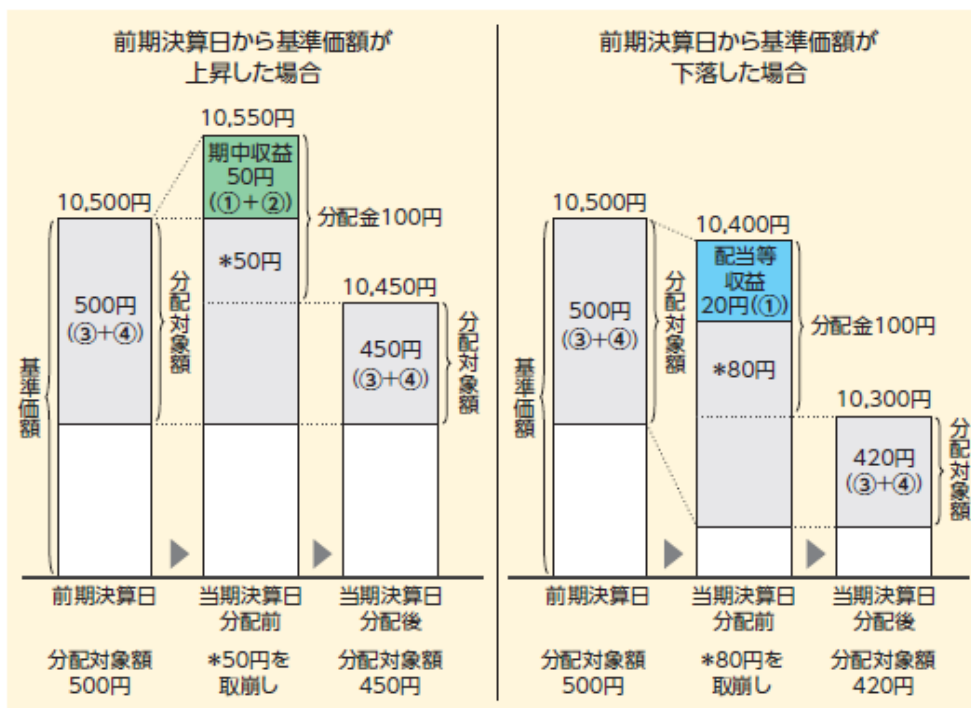
分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ



分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



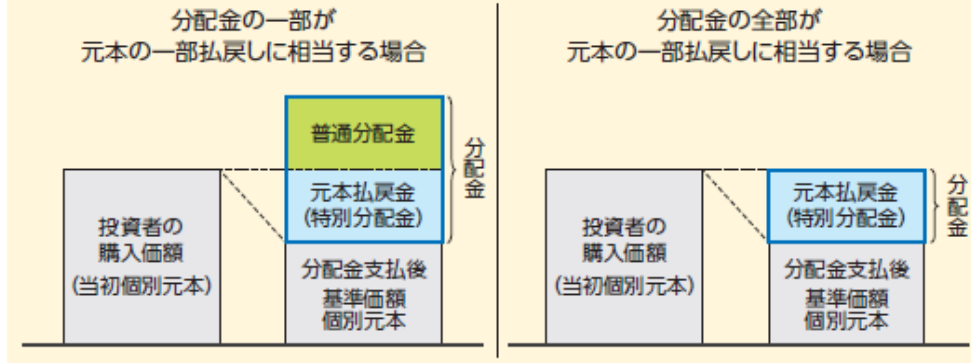
※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額とは、

- ① 経費控除後の配当等収益
- ② 経費控除後の評価益を含む売買益
- ③ 分配準備積立金
- ④ 収益調整金

※右記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆あるいは保証するものではありませんのでご注意ください。

投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部又は全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。



普通分配金

個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

元本払戻金(特別分配金)

個別元本を下回る部分からの分配金です。元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、分配後はその金額だけ個別元本が減少します。

※元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

<本資料のお取扱いにおけるご留意点>を必ずお読みください。